

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	世田谷区太子堂 5 - 2 4 - 2 7
園名	太子堂保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色を楽しもう

<テーマの設定理由>

自然物を使った色水遊びを楽しむ中で、「なぜ色が出るの?」「花の色と違う」などの疑問が出てきた。その後、食紅やクレープ紙の色水遊びも行う中で色についての興味、濃淡、混色などにも気づき試してみたいという思いが高まってきたため。

2. 活動スケジュール

- ① 5月 小麦粉粘土で遊ぼう
- ② 7月 色、光、影で遊んでみよう (草花、色水などから)
- ③ 9月 色を知ろう 楽しもう (クーピーやクレヨンで描いてみる)
- ④ 12月 色の綺麗さや重なりを楽しもう (クリスタル積木での構成遊びで様々な色の重なりにも気づき楽しむ)
- ⑤ 1月 色と光を試してみよう (クリスタル積木や、光の町の遊具にライトを当てて試してみる)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・クレヨン、クーピーなどたくさんの色の種類をそろえ、自由に使えるような環境を作った。
- ・クリスタル素材のカラー積木、ライトテーブル、懐中電灯を用意し、構成遊びと共に光を当てて色のきれいさや広がりなどを試せるような環境を設定した。
- ・ブラックライト、懐中電灯、プロジェクターを使うため、より色や光の様子が分かるように部屋に暗幕を張り室内を暗くした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ① 小麦粉粘土で遊ぼう （色が混ざり合うことを楽しんだり、試したりする）
 - ② 色、光、影で遊んでみよう （ブラックライトや懐中電灯を使い試してみる）
 - ③ 色を知ろう 楽しもう （60種類のクーピーやクレヨンで描いたり、塗ったりして楽しみながら色の違いや名前を知る）
 - ④ 色の綺麗さや重なりを楽しもう （ライトテーブルを使い、クリスタル積木での構成遊びで様々な色の重なりに気づき楽しむ）
 - ⑤ 色と光を試してみよう （クリスタル積木や、光の町の遊具にライトを当てて影が伸びる様子、色が変わる様子を試してみる）
- *保護者にはその都度、クラスだよりなどであそびの様子を伝えていく。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

① 小麦粉粘土で遊ぼう

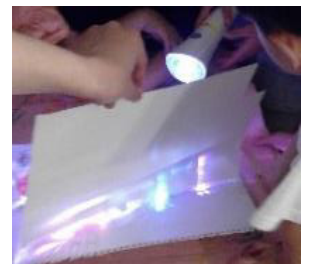
昨年から継続して遊んでいる小麦粉粘土だが、赤、緑、青などの単色の粘土で遊んでいたところ、2つ、3つと混色をして遊び始める。友だちの様子を見ていて同じように作りたいと混ぜ合わせるがなかなか同じ色にならずにいた。「〇色と〇色を混ぜたら出来るのかな？」と試し、友だちには「何色と何色で作ったの？」と聞いていた。



また、「紫にしたい!」とイメージするものの、自分が思うものとは違う色になってしまい不思議そうにする姿もあった。色の綺麗さ、面白さや不思議さに気づき遊びの中で試行錯誤する様子が見えた。

② 色、光、影で遊んでみよう

夏の色水遊びから子ども達がプラスチックのコップに色を塗り、水を入れて遊んでいた。そこで保育士が「ライトを当てたらどうなるかな？」と伝え、「やってみよう!」と興味が広がる。



部屋を暗くしてライトを当ててみると「先生、見て!」と紙の裏側にも色が映ることを発見する。折り紙で切り絵を作ったものにライトをあてて「花火だね」と言い、コップをいくつも重ね、「ここから（光を）当てたらいいんじゃない?」とライトを当てる向きも考えていた。



ラキューで作った動物にライトを当てて
「イノシシになった！」と出来た影に喜んでいた。
友だち同士、影絵でお話を考えて遊ぶ姿もあり、
背景をカラービニールや紙皿など身近な素材で
作って工夫していた。「影や光を大きく見せるには
どうしたらいい？」「色を重ねたらどうなる？」と
子ども達なりに試しながら遊んでいた。



③ 色を知ろう 楽しもう

60色のクーピーやクレヨンを準備する。
クレヨンでは大きな紙に力強く描こうとする姿が
あった。今までにない色の種類がたくさんあり、
嬉しそうに絵を描いていた。5歳児では色の名前に
興味を持ち、色を紙に塗ると「色の名前を書いて！」
と保育士に伝え、色見本表を作る姿があった。
黄色でも色々な黄色があり、それぞれに名前がある
ことも興味深い様子だった。



④ 色の綺麗さや重なりを楽しもう

色のついた透明なクリスタル積木とライトテーブルを用意
すると新しい用具や遊具ということもあり興味を示し遊び
始める。透明性のあるクリスタル素材の積木だったので光が
当たると透けて見える様子を楽しんでいた。また、積木同士
を重ね合わせると色が変わって見え、「紫に見えるよ！」
と気づく。「こっちから（赤側）見ると赤紫」
「こっちから（青側）見ると青が濃い紫だよ」などと
発見も報告してくれた。今までの経験で子ども達から
「懐中電灯が欲しい」とリクエストがあり、クリスタル積木にライトを当てて試す姿もあった。

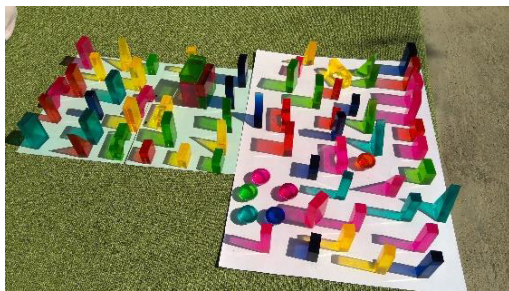


ホールなどの広い場所で遊ぶ機会を作る。保育士が懐中電灯やプロジェクターなどで光を当ててみると壁に大きく影が出来ることを知る。その映し出された影の中に子ども達自身も入ると、手を伸ばして積木の影を触ってみたり、自分の影を見て動いたりして楽しんでいた。

また、光の当て方によって影が伸びたり、大きくなったり小さくなったりすることに気づいてやってみたりする。



ホールからテラスに出て、太陽光でどうなるかを試す姿もあった。部屋から白い紙を持っていき、影が伸びるところに置くと影も同じように伸びることを発見し、保育士に「見て！ここも色が同じ！」と伝え、楽しんでいた。同じクリスタル積木でも濁りのあるものだとは色が出ず、黒くなってしまうことにも気づき、友だち同士で「こっち（色が出るもの）だけにしよう！」と色が出るものだけを並べ替えていた。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

- 遊びの中で保育士の言葉や働きかけで興味が広がったり、保育士が想定していたことよりも遊びが盛り上がったりする様子があった。色から光に関心が変化していく様子も面白かった。子どもの興味やつぶやきにすぐに対応できよう素材や用具の提供や保育士の柔軟な姿勢が大切であることを改めて感じた。
- 新しく整えた用具や遊具から子ども達の興味が広がり、遊びを重ねることで子ども達の中から「〇〇したい！」「〇〇したらどうかな？」という言葉が聞かれた。また、普段の遊びの中からも子どもから「やってみたい！」という言葉が聞かれ、積み重ねたことが自然と遊びに継続していく様子がみられ今後も続いていくことが感じられた。